

指導資料

鹿児島県総合教育センター

教育課程 第11号

- 小学校対象 -

平成13年11月発行

新教育課程への対応

- 教育課程の評価の在り方 -

新しい学習指導要領は、[ゆとり]の中で「特色ある教育」を展開し、児童に[生きる力]を育成することを基本的なねらいとしている。教育内容の大綱化、「総合的な学習の時間」の創設、1単位時間の弾力化などの改善が行われ、教育課程の編成、実施に関して学校裁量権限の拡大も図られた。

これにより、各学校では、学校や地域の実態を生かし、創意工夫した教育活動を展開し、これまで以上に特色ある学校づくりを進めていくことができるようになった。

本県においても、新世紀カリキュラム審議会答申の中で、これからの鹿児島の学校に望まれる「学校づくりの視点」として、「責任を果たす学校」、「個性の花咲く学校」、「開かれた学校」、「郷土への理解を深め、愛情を培う学校」が示された。各学校では、これらの「学校づくりの視点」を踏まえた上で、鹿児島の教育的風土を生かし、自らの地域や学校の実情に即した主体的な教育実践に取り組み、特色ある学校づくりに努めていかなければならない。

特色ある学校づくりに当たっては、自分の学校や地域にしっかりと根ざした教育課程を編成し、より主体的に教育の実践に取り組ん

でいくことが必要になる。

しかし、それは、同時に各学校で行う教育に関してこれまで以上に責任を求められることにもなる。各学校においては、編成した教育課程が、めざす児童像の実現に効果的であったかを適切に評価し、工夫改善していくことが必要になる。しかし、これまで行われてきた教育課程の評価の中には、教師による評価のみに終始し、客観性に乏しいという問題点や、評価した結果が改善に十分生かされていないという実態を指摘されるものがある。ここでは、各学校が特色ある学校づくりをめざし、責任ある教育を実施する上での一助となるよう教育課程の評価の在り方について述べる。

1 教育課程の評価に当たって

教育課程の評価は、各学校の教育目標に照らして行うものであり、実施に当たっては、実施の方法等について事前に十分検討する必要がある。

(1) 教育課程の評価の内容

教育課程の評価の内容は、教育課程のすべてにわたるものであり、教育課程の編成から、各教科、道徳、特別活動及び

総合的な学習の時間における指導計画，指導方法などに及ぶ。また，教育課程を編成，実施するために学校の運営上のような創意工夫を加えたかということも評価の対象とすることが大切である。

(2) 教育課程の評価の観点

教育課程の評価は，教育課程の編成，実施及び成果についての観点をあらかじめ設定して，組織的・計画的に行う必要がある。その際，学習指導要領第1章総則に示されている事項のほか，次のような観点が重要である。

- ア 学習指導要領をはじめとする国及び教育委員会の示す指針の趣旨が十分に生かされ，そこに示された基準が満たされているか。
- イ 学校の教育目標が，学校の教育活動全体を通じて十分追求され，成果を上げているか。
- ウ 児童の実態と適合するよう教育課程が編成実施されているか。
- エ 教職員や施設・設備等の諸条件と適合するよう教育課程が編成，実施されているか。
- オ 保護者や地域社会の期待に応えうる教育課程となっているか。

(3) 教育課程の評価の方法と留意点

評価の方法としては，職員会議等で協議して評価したり，評価する項目ごとに評価尺度や選択肢を設定し，数量的処理を行ったりする方法などが考えられる。

その際，次の点に留意することが大切である。

- ア 全教職員の共通理解を図り，協力して組織的に進めること。
- イ 教育課程の評価を年間計画に位置付けるなどして計画的に進めること。
- ウ できるだけ多面的で継続的な評価による客観的な評価となるようにすること。

また，教育課程の評価は，教育活動の区

切りに当たる学期末や学年末に行われることが多いが，教育課程の評価とその改善は平素から心掛けて行うことも大切である。例えば，学校行事等，活動単位の大きな教育活動については，活動終了後，その都度評価する必要がある。

2 教育課程の評価の実際

(1) 学期末や学年末に行う評価

学期末や学年末に行う評価は，その結果を次の学期や年度にすぐに生かせるものでなければならない。そのためにも，より確かな客観性のある評価を行う必要がある。例えば，教師による一通りの方法だけでなく，複数の視点から実施し，比較検討することで，より確かな結果を得ることができる。

具体的な評価の例を次に示す。

4：よい 3：ややよい 2：あと少し 1：もっと努力を
A 学習指導

評価項目	評価
1 児童の実態を踏まえ，「分かる授業」の展開に努めた結果，児童は学習内容をよく理解し，基礎・基本が身に付いたか。	
TTや，習熟の程度に応じた指導など指導法を工夫した結果，児童は一層学習内容を理解できたか。	
複数の教材や学習方法を準備するなど個に応じた指導の工夫に努めた結果，児童は自分に合った教材や学習方法を選択し，課題を解決できたか。	
郷土素材の活用を積極的に行った結果児童は学習に興味・関心をもち，必要な知識・理解，技能が身に付いたか。 *改善の具体策	

例1：教師の取組と児童の姿

4：よい 3：ややよい 2：あと少し 1：もっと努力を
A 学習指導

評価項目	評価

あなたは、算数の授業で複数の先生方に教えてもらった結果、学習内容がよく分かりましたか。	
あなたは、自分に合った方法を選んで意欲的に学習に取り組み、課題の解決ができましたか。	
あなたは、郷土のことについての学習に楽しく取り組み、学習内容がよく理解できましたか。 *学習について、先生にお願いしたいこと	

例2：児童の自己評価

このように二通りの評価を実施し、比較した結果に大きな違いが出てきたときは、児童に再度アンケートを実施するなどして、その原因を明確にした上で例1の評価を見直し、教師の取組を検討する必要がある。

また、評価の客観性を更に高めるためには、各学校において実施されている様々な検査結果を活用することが効果的である。例えば、例1の基礎・基本の定着については、検査結果と比較することによって成果や課題を一層明確にできる。このように、できるだけ多くのデータに基づいた多面的な評価の実施により、客観性のある評価をめざすことが大切である。

さらに、特色ある学校づくりの一環として、例えば、特に国語科における表現力の育成に

努めている場合、そのことに関する評価も継続的に実施する必要がある(例3参照)。

<教師の取組と児童の姿>	
相手に分かりやすい発表の仕方や作文の指導に努めた結果、子どもたちは自分の考えをまとめて発表したり、作文で表したりする力が高まったか。	
<児童の自己評価>	
あなたは、発表したり作文を書いたりするときに、相手が分かりやすいように伝えることができましたか。	

例3：特色ある教育活動の評価

(2) 教育活動後すぐに行う評価

学校行事等、主な教育活動の評価は、実施後すぐにアンケートを実施し、学年会で検討するなどして、課題や改善案を明確にしておくことが大切である(例4参照)。

例4 秋季大運動会に関するアンケート(教師用)
今回実施した秋季大運動会について、該当するところを付けてください。

	そう思う	思わない
1 当日の運営はうまくいった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 児童の参加は非常に積極的であった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 目標は十分達成された。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 運動会に対する児童の満足度は非常に高かった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 全体練習や学年合同練習の時間数は適切であった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 児童は運動会を今の形で続けることを願っている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

*改善したいことを記入してください。

例5 教育活動の見直しのためのアンケート(教師用)

当てはまるものに を付けてください。

氏名()

教育活動名	本年度の実施期日	現行のまま	見直すこと					学年を変更	見直すということで付けた項目についてその理由や対策を記入してください。
			他行事と統合	実施しない	時数を変更	内容を改善	時期を変更		
入学式	4 / 6								
春の一日遠足	4 / 22								
春の交通安全教室	4 / 24								
避難訓練	5 / 16								
集団下校訓練	6 / 25								
校内水泳大会	9 / 5								
秋季大運動会	10 / 6								
開校記念遠行	11 / 7								
集団宿泊学習	11 / 18								
修学旅行	11 / 18								
学習発表会	2 / 5								

また、このような教育活動後すぐに行う評価の場合も、児童に対するアンケート等を実施してより客観的な評価ができるようにすることが大切である。

さらに、例5に示すような評価を計画的に実施しておくこと、次年度の教育課程の編成に生かすことができる。

(3) 日常的に行う評価

各教科等については、単元や題材等のねらい、指導内容の構成や配列、扱う教材、配当時数等は適切であったかを、教師一人一人がその都度評価し、必要事項を年間指導計画に朱書しておくことが大切である。そして、その結果を定期的に教科部会等で集約し、次年度の年間指導計画作成に生かしていく必要がある。

3 教育課程の改善

教育課程の評価は、教育課程の改善を図り、教育効果を高めることを目的として実施する。したがって、評価の結果を教育課程の改善のためにどう生かしていくのかが重要である。

(1) 改善の手順

教育課程の改善は、一般的には次の手順で行っていくことが考えられる。

評価の資料を収集し、検討する。
整理した問題点を検討し、原因と背景を明らかにする。
改善案をつくり、実施する。

(2) 改善の具体例

学期末に実施する評価の結果に対する改善策の例を次に示す。評価項目に対する評価は平均値である。

4：よい 3：ややよい 2：あと少し 1：もっと努力を	
評価項目	評価
1 児童の実態を踏まえ、「分かる授業」の展開に努めた結果、児童は学習内容をよく理解し、基礎・基本が身に付いたか。	2.5

単元テストや小テストの間違いを確実にやり直させ、再度提出させて確認する。

毎週金曜日の放課後に学力向上の時間を設定し、個別指導を中心に行う。

授業では学習プリントを数種類準備し、学習の達成度に応じられるようにする。

指導過程に、自分一人で追求する時間を十分確保する。

このように、全職員で検討し、共通理解した改善策は、次の学期から早速実践することになる。また、次の学期末には、この実践についての評価も実施することになる。

現在、各学校には、教育課程の編成や実施状況等について、保護者や地域住民にもきちんと説明していく責任が求められている。各学校では、これまで述べてきたように、学校や地域の特色を生かし、児童の実態に即した責任ある教育活動が実施できるように、教育課程の評価を適切に行っていく必要がある。そのためには、日々の実践活動の中で絶えず児童の状況を把握し、その状況に応じて教育活動を見直し、改善していこうとする教師一人一人の意識と自覚が大切である。

[引用・参考文献]

文部省『小学校学習指導要領解説総則編』平成11年
新世紀カリキュラム審議会『鹿児島県の特色を生かした教育課程の在り方等について（答申）』平成13年
(新教育課程の編成に関する検討委員会)